

遠隔授業と対面授業をブレンドした授業における一考察

——アンケート調査の結果から——

林 河運

1. はじめに

昨今、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、日本中の各教育機関が遠隔授業¹の実施を余儀なくされた。島根大学でもインターネットを介した遠隔授業が開始されることとなった。しかし、2020年度の授業はほとんどの授業が遠隔授業のみで実施されたが、2021年度の前期からはオンデマンド型授業ではなく同時双方向型遠隔授業を中心に実施しつつ、遠隔授業と対面授業をブレンドしたハイブリッド型の授業を勧めている。特に外国語科目の場合は可能な限り対面授業を実施するように、大学の方針が決まっていた。そこで、本稿では筆者が2021年度の前期に実施した「韓国朝鮮語Ⅰ」のハイブリッド型の授業について、その有効性と改善点を探るため、学習者の学習状況に関するアンケート調査²を実施した。その後、回収したアンケート調査の結果を精査することで、学習者がハイブリッド型授業についてどのように評価したのかを考察する。その後、本稿で得られた考察の結果と知見を踏まえ、ポスト・コロナ時代のハイブリッド型授業の実施方法や在り方に活用していきたい。

2. 授業の実践状況

2.1 島根大学の状況

島根大学の遠隔授業の環境として、Microsoft社のoffice365の環境で利用できるTeamsやWeb会議サービスのZoomも提供されている。また、遠隔授業のプラットフォームとしてMoodleも導入されているし、飛沫防止のためのマイク設備やPCなどを投影できる設備も整っている。学習者の環境としては、大多数の学生がノートパソコンやスマートフォンを所持していて、PCを所持していない学生に対してはPCの貸し出しも可能な環境である³。さらに、Wi-Fiの環境が整っていない学生に対しては、コロナウイルス感染防止対策を講じた教室の開放も可能になっている。つまり、2020年度の実験から遠隔授業を実施するた

¹ 一般に遠隔授業と言えば、ICTを活用した授業とするが、本稿では文部科学省が定めている定義を従うこととする。文部科学省のHPでは、新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応についての大学・大学院・高専に関する情報の中に遠隔授業の定義について述べている。「遠隔授業は、同時かつ双方向に行われるものや、毎回の授業の実施に当たって当該授業の終了後すみやかに指導を併せ行うもので、当該授業に関する学生等の意見の交換の機会が確保されているものなど、いわゆる同時性又は即応性を持つ双方向性（対話性）を有し、面授授業に相当する教育効果を有すると認められるものであること」としている。

² 神奈川大学教育支援センターの「遠隔授業の有効性と課題」に関する調査アンケート：学生向け集計結果（学外公開用）の資料、香川大学の大学教育基盤センターの「コロナ禍における学生の学習活動及び教員の教育活動の実態」、九州大学教育改革推進本部の「九州大学のオンライン授業に関する学生アンケート（春学期）結果について」の資料を参考に、筆者が加筆修正を加え作成したアンケートを筆者のMoodle上のコースに公開をし集計した。

³ 近年、生徒たちのスマートフォンの所持率は100%である。

めの環境は大抵整っていると言える。

2.2 授業科目の概要

島根大学では、令和3年度前期の授業開始後1週間分の授業は必ずオンデマンド型授業を実施することが義務付けられていた。また、初修外国語の場合は文字を習得する際、個々人の発音の確認が必要となったため、教員の判断で文字習得までは双方向型遠隔授業が可能となっていた。筆者が使っている教材は、第1課から第4課までが文字の習得であったため、初回の授業から10回目の授業までを同時双方向型遠隔授業としてZoomを用いて授業を実施した。

授業の目的は、読む・聴く・話す・書くという4技能バランスのとれた韓国・朝鮮語の運用能力を養うことと、英語以外の外国語を学ぶことで多元的文化的理解を目指すことである⁴。

2.3 学習者（受講生）の詳細について

本稿の調査対象は、前期の「韓国朝鮮語Ⅰ」の2単位を修得するための生徒を対象に、週2回の100分間の授業として開講されているクラスである。授業の対象学年は筆者が担当した医学部⁵を除いた全学部⁶の1回生から4回生である。また、調査対象は名簿通りの人数から欠席が多くて未修になった学習者やアンケート調査時に欠席をした学習者のアンケートを除いた人数である。授業初回時の実際の学習者の人数は、「教育学部と人間科学部の混合クラス」が32名、「総合理工学部クラス」が33名、「生物資源学部クラス」が33名である。

<表1>

属性	学部		性別		学習歴		学年			
	教育学部	人間科学部	男	女	あり	なし	1年	2年	3年	4年
	9人	20人	5人	24人	1人	28人	29人			
	総合理工学部		男	女	あり	なし	1年	2年	3年	4年
	31人		26人	5人	1人	30人	29人		2人	
	生物資源学部		男	女	あり	なし	1年	2年	3年	4年
	32人		17人	15人	3人	29人	32人			
合計	92人		48人	44人	5人 ⁶	87人	90人		2人 ⁷	

⁴ 島根大学で科目の達成目標として設けているのは、以下の4つである。

①ハンゲルが読めるようになり、基本文法の知識が身につくことについて基本的な文章の読解や簡単な会話ができる。

②現代韓国・朝鮮語圏文化を理解することができる

③英語以外の外国語を学ぶことで、日本語、日本文化をより客観的に見る視点を獲得し、多くの文化が共生する地球に生きている自覚と責任を持つことができる。

④大学生として新たな外国語を学ぶことで、これまでの学習方法や学習観を自ら振り返って客観化でき、それらを主体的・能動的に転換することができる。

⁵ 令和3年度前期の医学部の授業は、オンライン授業のみで行われたので今回の対象には含まれていない。

⁶ 韓国語の学習歴は8か月未満の学習者が4人で、2年未満の学習者が1人いた。

⁷ 他大学からの編入生が2人いた。

学年は、他大学からの編入生が2人いて、他の受講生はすべて1回生である。性別は、男性が48人、女性が44名で、合計92名である。また、韓国語の学習歴については、全員日本語母語話者であり8か月未満の学習者が4人、2年未満の学習者が1人いた。この5人以外のその他の学習者は全員韓国語が初めてである。

3. コロナ禍の中での授業の質の確保のための試み

ここでは、2021年度前期に筆者が担当した「韓国朝鮮語Ⅰ」の科目において授業の質の確保のために行った様々な実践と試みについて述べる。

3.1 授業の具体的な実施方法

筆者は新型コロナ禍の中での授業の進行において、次の点に注意を払って授業を行っている。(1) 楽しくて分かりやすい授業を目指す、(2) 実体験と達成感を味わってもらうようにする、(3) 韓国や韓国文化・社会についても興味を持つようにするために、韓国文化・社会についての紹介を随時行い、モチベーションを保てるようにする、(4) コロナウイルス感染防止対策を講じつつ、体験学習も取り入れて学習者から知的好奇心を呼び起こすように努める、(5) 対面授業の場合でも授業の解説動画資料を Moodle に提供し、事前学習と事後学習がいつでも出来るようにする、(6) 教員を含め学習者同士の接触を可能な限り減らすため、板書をホワイトボードではなく iPad 上で行い、板書による無駄な時間を減らしつつ、学習効率も上げるようにする⁸、(7) コロナウイルス感染防止対策のため、すべての試験をペーパー試験ではなく Moodle 上で行う、(8) 学習者の利便性を図るために授業関連の資料は直接配布とともに Moodle での提供も行う。しかし、回収はすべて Moodle 上で提出するようにする。

3.1.1 授業の具体的な進め方

以下に、授業の具体的な進め方について時間順に沿って紹介する。

- (1) コロナウイルス感染防止対策をするための事前準備が必要となったため、授業スタート15分程度前に教室に入り、その日に使うプリントの配布や換気の準備とタブレットのセッティングやマイク設備の準備⁹などを行う。
- (2) 毎回授業の最初に、小テストを行う。しかし、コロナウイルス感染防止対策のためペーパーテストではなく、Moodle 上で実施する¹⁰。(15分)
- (3) 単語テスト後は、今日の学習目標やキーワードなどを説明する。(5分)
- (4) 今日の新出単語を確認させて、教員に続いて音読させる。(10分)
- (5) その後、今日の文法事項を解説し、練習問題をたっぷり解いてもらう。この際、授業

⁸ 新型コロナ前なら練習問題の答えなどをホワイトボードに書かせたり、教員も授業の解説を書いたり消したりしていたが、これを無くすことにより教員を含め学習者同士の接触も減らせるし、学習時間の確保にもつながる。また、タブレットを用いることによりテキストの内容を写真として提供でき、さらに授業内容の拡大縮小も自由自在なので学習効果は大きいと考えている。

⁹ マイクの消毒とマイクヘッドに不織布製の使い捨てマイクカバーを被せるなどの時間が必要である。

¹⁰ Moodle を用いた小テストは、体調が悪くて欠席をした学習者に対しても瞬時に対応ができる長所がある。

- 者は教室を巡回しつつ、間違っている学習者がいれば瞬時にフィードバックをする。(30分)
- (6) 今日のまとめをしつつ、学習者自身が何を習ったのかを振り返るように時間を与える。(10分)
- (7) 次回まで覚えてくる単語の確認とともに授業者について2回音読させる。また、次回の授業の概略についても簡単に説明をする。(5分)
- (8) 授業終了直前に、テキストに載っていない旅先で使える表現について毎回1つずつ教えている。例えば、「辛さ控え目をお願いします。(アンメプケ ヘジュセヨ)」のような表現である。(5分)
- (9) 最後に、授業の内容と時間の都合によって実践できない場合もあるが、パソコンを使ったPPT資料を用いて、日韓の文化・社会の違い、K-POPの歌などを紹介している。これは、異文化の存在に意識させることにより、韓国の文化圏に一層好奇心を抱き、主体的な学習を促すことが目的である。(15分)
- (10) 次の授業のために、授業中に使ったり触ったりしたマイクや機材など、すべての個所の消毒を行う。(5分)

3.2 授業実践上の試み

以下に韓国朝鮮語 I の授業の中で、筆者が実践した試みについて述べる。

3.2.1. 語呂合わせやリズムに乗せての暗記形式

3.1 で述べた (1) 「楽しくて分かりやすい授業を目指す」という心構えを実現するために、単語や発音のルール、そして数字などを楽しく暗記できるよう、リズムに乗って暗唱させるか語呂合わせによる学習を実践した。この学習方法は林 (2018) で長期記憶に保存する効果があると報告しているので、今回も試みた。

3.2.2. ビンゴを通じた数字の学習

これも 3.1 で述べた (1) 「楽しくて分かりやすい授業を目指す」を成功させるために、ビンゴゲームを通じて韓国語の数字を楽しく学習できるようアイデアを加えた。この際、配布したビンゴ用紙に数字を韓国語で書かせて、市販のビンゴゲーム機を用いて転がり落ちた玉の数字を教員が韓国語で発音して、最初に縦・横・斜めのいずれか 1 列にある 5 マスが 2 本揃った、つまりビンゴになった学習者を勝ちにする形式で行った。しかし、普通のビンゴゲームのように商品をかけることはできないため、平常点をプラスする形で学習者のやる気を引き出させた。楽しく韓国語の数字が学習できるとうかがえる。

3.2.3. 手鏡やスマートフォンのカメラを通じた文字の習得

3.1 で述べた (2) 「実体験と達成感を味わってもらうようにする」を実行するために行った。特に、韓国語の文字には日本語にない発音も多く、入門の段階では舌の位置や唇の形などを自ら確認しながら文字の習得をする必要があるため、手鏡かスマートフォンのカ

メラカで、一つを選択し発音の練習をするように促している。このとき、舌の感覚や唇の感覚の例えを日本語に例えて学習者が発音のコツをつかみやすくしている。

3.2.4 感染防止対策を講じた移動式会話の練習

3.1 で述べた (2) 「実体験と達成感を味わってもらうようにする」を叶えるために、コロナ禍の影響でソーシャルディスタンスを保たないといけないルールがあったため、実践するのが難しかったが座学だけの授業が多かったことを解消したくて試みた。この際、ソーシャルディスタンスを確保しつつ、小さい声で話すように指示を出した。この学習方法も林(2018)によると、眠気防止の傍ら友達との話し合いの中で仲間意識(同じ趣味や好みなど)が生まれるし、楽しみつつ学習内容が習得できるとしている。多くの授業が遠隔か座ったままの形式が多い中、座学だけではモチベーションを保つことが困難であることが見受けられる。しかし、こういった友達と韓国語で会話をしながら楽しく学ぶことが出来る環境は、韓国語を学ぶ楽しさを実感できると判断される。

3.2.5 中間試験後の映画鑑賞による学習

これも 3.1 で述べた (2) 「実体験と達成感を味わってもらうようにする」と (8) 「学習者の利便性を図るために授業関連の資料は直接配布とともに Moodle での提供も行う。しかし、回収はすべて Moodle 上で提出するようにする」を成功させるための実践である。普段韓国映画を見る機会がある学習者は少ないはずである。また、初修外国語なので初めて韓国語を学ぶ学習者がほとんどであり、二か月弱しか学んでいないのに韓国映画を鑑賞することにより聞こえる単語や表現があることに気づき、達成感を味わうことができると考えられる。この際、映画鑑賞後の感想文と聞こえた単語や表現、また日韓の文化や生活習慣の違いなどに気づいた点を記入させたシートを Moodle の方へ提出するようにした。これにより、韓国と韓国文化や韓国語に対する興味が沸き、学習意欲も旺盛になるであろう。

3.2.6 日韓の文化の違いなどの紹介¹¹

3.1 で述べた (3) 「韓国や韓国文化・社会についても興味を持つようにするために、韓国文化・社会についての紹介を随時行い、モチベーションを保てるようにする」を可能にするために、授業の内容や時間の都合上実施できない場合があるものの、大体の授業の最後に日韓の文化の違いや生活習慣の違い、しぐさの違いなど PPT 資料を用いて紹介をした。また、単に紹介だけで終わりではなく、Moodle のフォーラムという機能を活用し、学習者同士の感想など意見交換の場も設けて情報を共有させた。こういった試みによって、自文化と異文化との類似点や相違点などに気付くこととなり、自ら学ぶことに興味や関心を寄せて主体的な学びにつながると窺われる。

¹¹ その他、有名な観光地の紹介、韓国のカップルの記念日の紹介、日常生活の違いは三回にわたって紹介、韓国の結婚式の紹介、韓国のお正月の紹介を行った。

3.2.7 韓国料理のレシピの紹介

これも上記の3.2.6で述べたことと同様で、(3)「韓国や韓国文化・社会についても興味を持つようにするために、韓国文化・社会についての紹介を随時行い、モチベーションを保てるようにする」を現実化するために施した学習活動である。レシピは韓国料理の中でも日本人に人気の高いメニュー¹²を中心として、実際に筆者が自宅で家族とともに実践して作ったものをベースに作成し、Moodle上で公開をした。特に、コロナの影響で巣ごもり需要があったためより一層の効果があったと推測できる。

3.2.8 伝統衣装や伝統遊びの体験学習

3.1で述べた(4)「コロナウイルス感染防止対策を講じつつ、体験学習も取り入れて学習者から知的好奇心を呼び起こすように努める」と(8)「学習者の利便性を図るために授業関連の資料は直接配布とともにMoodleでの提供も行う。しかし、回収はすべてMoodle上で提出するようにする」を成功させるため施行した。この試みは、林・朴(2017)と林(2018)の報告で学習者が一番好む学習活動であることが確認されている。したがって、コロナウイルス感染防止対策を講じた上で体験学習を実践した。今回体験したのは「韓国の伝統衣装である韓服(한복:ハンボク)」と「伝統遊びである投壺¹³(투호:トゥホ)とチェギチャギ¹⁴(제기차기:チェギチャギ)」である。実践の手順として、まず普段授業を行っている教室で伝統衣装や伝統遊びについての資料を配布し、事前解説や関連動画の視聴をさせながらの説明を行った。その後、間接的な接触やソーシャルディスタンスを保つため、体験学習専用の別の教室を確保し小人数だけ入室させ、メンバーが変わる度に消毒をしつつ伝統衣装の試着体験と伝統遊びの体験を実施した。伝統遊びに関しては従来なら、遊び道具も学習者自ら手作りをさせ実体験を実施するが、今回は感染防止対策のため手作り体験を省略した。また、体験後は感想文を記入させMoodleの方へ提出するようにした。これは単純に体験だけで済ませるのではなく、自文化と異文化との共通点や相違点に気づかせるためである。この一手間を加えることにより、学習者は韓国文化や韓国語に対する知的好奇心をそそられるであろう。

3.2.9 コロナ禍の中で新たな試み

3.2.9.1 Moodleによるテスト形式¹⁵

3.1で述べた(7)「コロナウイルス感染防止対策のため、すべての試験をペーパー試験ではなくMoodle上で行う」を実現するために行った。Moodleによるテスト形式は採点が即時にできる点とすぐ間違いに気づき、覚えなおしが瞬時にできる点など教員側も学習者側

¹² 実際紹介したメニューは、「簡単に作れるチャプチュ」と「チーズタッカルビ」である。

¹³ トゥホは、離れた場所から矢を放り投げて、壺に入れる遊びです。今回は教員が手作りのもので体験させた。矢は新聞紙を使い作成し、壺はペットボトルと段ボールを合体させて手作りの。

¹⁴ チェギチャギは、羽根のようなものを蹴り上げるお正月遊びであり、日本の蹴鞠(けまり)にも似ていて落とすことがないように連続して蹴り上げる遊びである。今回はレジ袋とペットボトルのキャップ、そして10円玉を使い教員が手作りのものを利用した。

¹⁵ この際、試験勉強に役に立つよう、Quizletを用いて単語のフラッシュカードと学習セットを作成し、Moodleにアップして学習者の便宜を図った。

もメリットが大きいと推測される。しかし、ノートパソコンかスマートフォンなどのデバイスが必要となり、従来のペーパーテストより試験中の試験監督の難しさを痛感した。また、韓国語で書かせる問題や記述式問題形式は Moodle による正確な判定が不可能であるため、改めて教員が再採点をする手間がかかる弱点もあった。

3.2.9.2 iPad による板書¹⁶

3.1 で述べた (6) 「教員を含め学習者同士の接触を可能な限り減らすため、板書をホワイトボードではなく iPad 上で行い、板書による無駄な時間を減らしつつ、学習効率も上げるようにする」を叶えるために試みた。従来の板書だと授業内容や文法事項の解説を書いたり消したりする時間がかかりかかった。また、テキストを見たり黒板を見たりしないといけないため、集中力が落ちる部分も見られた。しかし、iPad での板書によりテキストの写真や pdf も表示でき画面の拡大縮小も自由自在のため、テキストと文法事項の解説が同時進行できるメリットがあり、分かりやすく集中力も高まったと予測される。さらに、iPad による板書により浮いた時間を有効活用し、より多くの練習問題を解く時間や韓国文化の紹介などの時間に充てることができた。

3.2.9.3 ハングルのタイピングの練習

3.1 で述べた (7) 「コロナウイルス感染防止対策のため、すべての試験をペーパー試験ではなく Moodle 上で行う」を解決するために行った取り組みである。紙ベースの試験ならば韓国語で書かせる問題を提出することができるが、Moodle による試験では直接書かせることが不可能であったため、ハングルのタイピングの練習を行い、ノートパソコンかスマートフォンなどのデバイス上で打ち込めるように実施した。また、この工夫により韓国や韓国語に気になることがあった際に、学習者自らネット上で日本語だけでなく韓国語でも検索が可能となるため、試す価値があると考えている。

4. 授業後のアンケート調査の結果と考察

ここでは、最後の授業時に Moodle 上で実施したアンケート調査の考察結果について述べる。「韓国朝鮮語 I」科目の授業に参加した学習者 92 名に対して、(1) 「語呂合わせやリズムに乗せての暗記形式」(2) 「ビンゴを通じた数字の学習」(3) 「手鏡やスマートフォンのカメラを通じた文字の習得」(4) 「感染防止対策を講じた移動式会話の練習」(5) 「中間試験後の映画鑑賞による学習」(6) 「日韓の文化の違いなどの紹介」(7) 「韓国料理のレシピの紹介」(8) 「伝統衣装や伝統遊びの体験学習」(9) 「Moodle での動画提供」(10) 「Moodle によるテスト形式」(11) 「iPad による板書」(12) 「ハングルのタイピングの練習」について学習者がどのような実感を持っているのかを選択式の質問項目とそれぞれの取り組みについての自由コメント欄を設けて回答してもらった。また、アンケートの最後には「韓国

¹⁶ iPad 上で使用したアプリは Explain Everything BASICS である。板書のできるメモアプリは様々なものがあるが、筆者が動画作成時も利用しているアプリのため、操作方法や編集にも慣れているから今回もこのアプリを用いた。

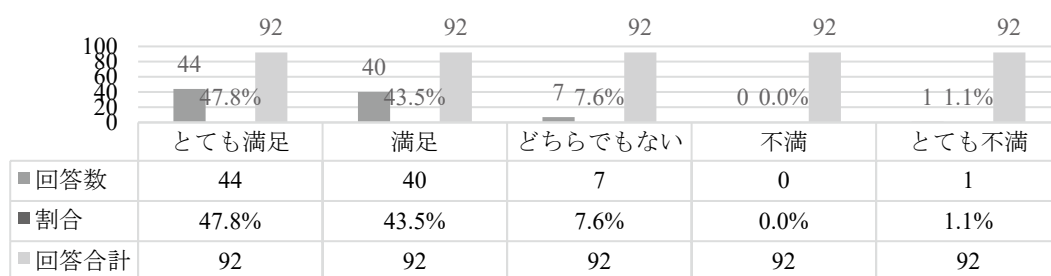
朝鮮語Ⅰ」科目を受講した後の授業全般に対する学習者の率直な感想も自由記述式で答えてもらった。

4.1. 語呂合わせやリズムに乗せての暗記形式の感想から

図1は学習者に「語呂合わせやリズムに乗って暗記させる場面が多々ありましたがどうでしたか」と尋ね、「とても満足」や「満足」と答えた者だけで全体の9割以上もいることが分かった。つまり、学習者に高い支持を得ていることが窺える。割と暗記しづらい韓国語の発音のルールなどを暗記する際、楽しみつつ長期記憶にも効果のある学習方法であったことが示唆される。

それとは違って、「どちらでもない」7人と「とても不満」と回答した者も1人いた。また、自由コメントに「興味がないせいなのか何一つ覚えていない」と「私は普通に覚えたほうがよかった」という2つの意見があり、これに関しては、素直に受け止めてさらなる配慮¹⁷が必要であると感じている。今後改善をしていきたい。

図1 語呂合わせやリズムに乗せての暗記形式



以下は、「語呂合わせやリズムに乗って暗記させる場面が多々ありましたがどうでしたか」に対して自由コメント¹⁸を入力してもらった結果である。多数寄せられたコメントの中から筆者が選定を行い、肯定的なコメントには●を、否定的なコメントには★をつけて紹介する。
●繰り返していればゆっくりでもだんだん身に付いてきたので、ただ暗記するより楽しく、覚えやすかった。

●韓国語の授業を受けてきて、母国語とはかけ離れている言葉や音が出てくると覚えるのがとても難しかったです。語呂合わせと一緒に暗記できたことで本当に暗記が楽になったし覚えやすかったです。これからも続けてほしいです。

●頭に残りやすいし、簡単に覚えられる。

●口に出しているうちに自然と何も見なくても言えるようになっていた。印象に残ってとても良かった。

●普通に覚えるのでは覚えにくいので、語呂合わせやリズムで暗記することで記憶に残り

¹⁷ 筆者は授業時に語呂合わせやリズムに乗って暗記するのが苦手な人は無理しなくても良いと説明をしている。

¹⁸ 自由コメントは原文のまま紹介している。また、内容が重複しているコメントが数多く見られたため、肯定的なコメントと否定的なコメントを合わせて10個以内に限定し公開している。

やすかったです。

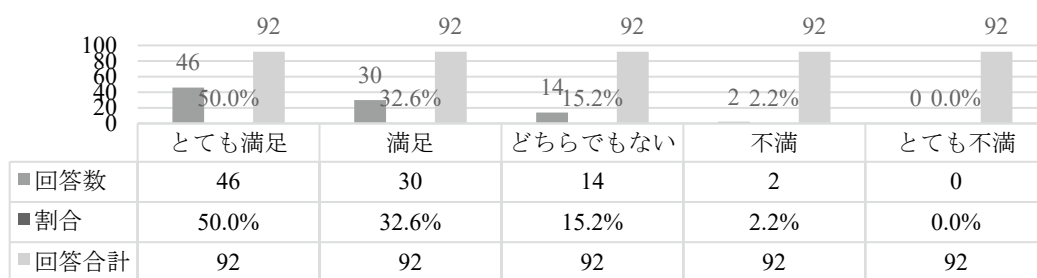
★興味がないせいなのか何一つ覚えていない。

★私は普通に覚えたほうがよかった。

4.2. ビンゴを通じた数字の学習の感想から

図2は学習者に「ビンゴを通じた数字の学習は？」と尋ね、回答してもらった結果である。「とても満足」や「満足」と答えた人の割合が約83%であり、「このビンゴを通して、すぐに数字が頭の中に浮かぶようになった」、「楽しみながら学ぶことで定着しやすかった」という回答が多数確認された。4.1の結果に比べればやや低いものの、学習者に受け入れられている取り組みであることは言えよう。その反面、「数字を聞き取れなかったりして、進むのが早いと思った」、「早すぎて追いつけない」という意見も集められた。この意見に関しては、今後時間調整や数字を言うスピード、数字の音声を Moodle 上に提供するなどの改善をしていきたい。

図2 ビンゴを通じた数字の学習



以下は、「ビンゴを通じた数字の学習は？」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

●書くのには時間がかかったけど、何度もやると自然と数字を覚えていていい学習方法だと思いました。

●ゲーム感覚で数字を学べるし、聞き逃さないようにしようと集中するのでリスニング力が上がったと思います。

●数字の聞き取りが早くなるので、とても良い練習だと思った。

●自分で紙に書いて先生から言われた単語を自分で見つけることで言葉が定着しやすくなったと思う。

●ビンゴで何回も書いたおかげで短時間で覚えられました。

★数字を聞き取れなかったりして、進むのが早いと思った。

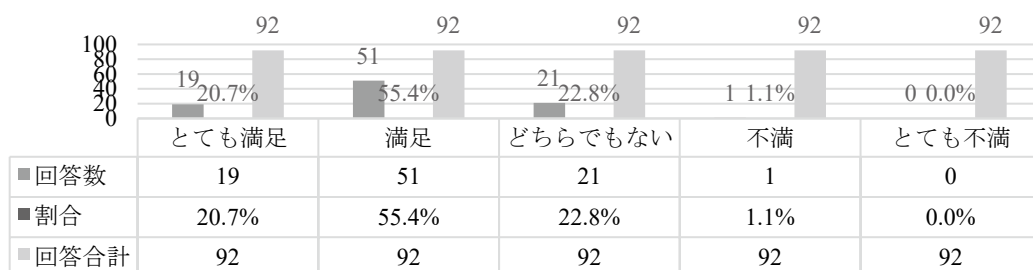
★早すぎて追いつけない。

4.3. 手鏡やスマートフォンのカメラを通じた文字の習得の感想から

図3は学習者に「手鏡やスマートフォンのカメラを通じた文字の習得は？」と尋ね、得

られた結果である。「満足している」と答えた人が約76%であり、自由コメントも「音だけでは発音がわかりにくいので、実際に自分で見て練習できるのはいいなと思いました」、「自分の口の形を確認しながら勉強することができて分かりやすかった」のようなものがたくさん寄せられた。これは、前項のような圧倒的な賛同ではないものの、正しく発音をしているかを確認しないといけない文字の習得には有益な学習活動であったことが見受けられる。他方、約23%の人が「どちらでもない」と返答し、「不満」と答えた人も1人いた。また、「自分の発音の仕方があっているのか不安だった」、「みんなの前でやるので恥ずかしかった」というコメントも幾つか見られた。今回、文字の習得の際にはオンラインのみでの授業であったため、Zoom上のカメラ越しから学習者の口元の確認を行うしかなかった。その影響で少人数ではあるが、みんなの前で口元を見せることについて抵抗があった人がいたのではないかと推察される。今後、人の前で口元を見せることに抵抗のある方はブレイクアウトルームを用いて対応するなどの配慮が必要であると考えている。

図3 手帳やスマートフォンのカメラを通じた文字の習得



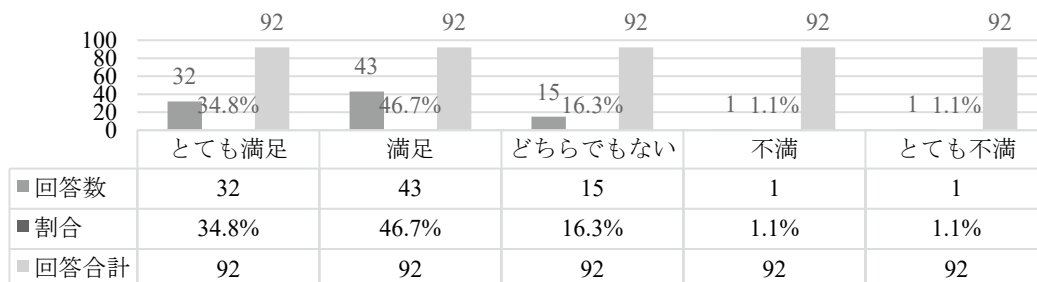
以下は、「手鏡やスマートフォンのカメラを通じた文字の習得」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

- 発音をする際、自分では指示通り口を開けているつもりでも、実際はきちんとした口の形になっていなかったりすることがよくあったので、手鏡を使うことでそのようなところに気づくことが出来てよかったですと思います。
- 口の形を見ながら学習するというのは、とても良いと思った。
- 手鏡を用いることで分かりやすかった。
- 口の動きがよくわかる。
- 手鏡を使うことで、自分の口がどのように動いているのかが理解できたり、動画と口の形を比較しながら練習できたので、身につきやすかったように思う。
- ★カメラを通じてだどどの部分を説明しているかが分からなくなることがあった。
- ★自分で見ながらできるのはいいと思いましたが、それが当たっているのかどうかかわからず不安でした。
- ★恥ずかしくてやりにくかった。対面の方が良い。

4.4 感染防止対策を講じた移動式会話の練習の感想から

図4の質問の「感染防止対策を講じた移動式会話の練習は？」に対し、「満足している」と回答した者が全体の8割以上観察できた。自由コメントも「会話練習するのは楽しかったし、友達の好みを知れたのでよかったですと思います」、「話すのも楽しいし、習得が早いと感じるので良かったです」のようなものが多数集まった。これは、コロナ禍で人と話す機会がほとんどない中でソーシャルディスタンスを守りながらではあったものの、人と接することで新しい友達もできる傍ら、眠気防止にもなると同時に実際に話してみることにより韓国語を学ぶ楽しさを実感できたと予測される。その一方で、「韓国語の教室で友達をまだ作れていなかった人には、酷なものだと感じた」、「友達が授業内にいなかったので少し気まずかった」という声も少し見つかった。今後、人に話しかけることが苦手な人にも実りのある学習活動になるよう教員が素早くフォローするなどの措置が必要であると実感した。

図4 感染防止対策を講じた移動式会話の練習



以下は、「感染防止対策を講じた移動式会話の練習」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

- 言葉に出してみることでより覚えやすくなったし韓国語の授業でしか会わない子とも仲良くなれたので楽しく覚えることができた。
- 実際に発音してみることでより韓国語を学ぶ楽しさを実感しました。
- 他の友達と会話ができて楽しかったし、実際に使ってみることで定着度が上がったと思う。
- 実際に相手に話してみるのは、一人で練習するよりも緊張感があってよかった。
- コロナ禍で中々友達と話す機会がない中、話すことができありがたかった。
- ★顔見知りではない人が多いので、話しかけることが苦手な人だと会話練習がしづらいと思いました。
- ★韓国語の教室で友達をまだ作れていなかった人には、酷なものだと感じた。

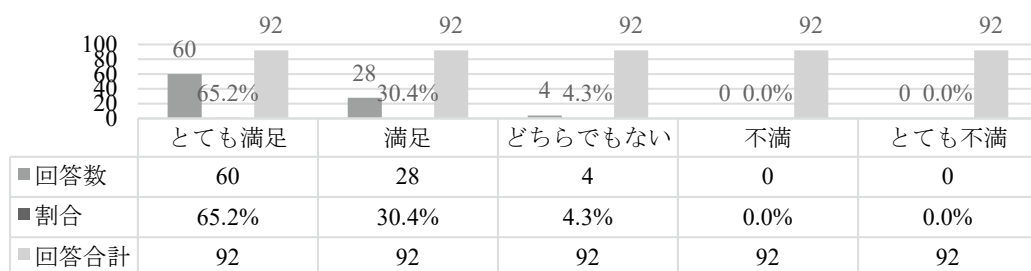
4.5 中間試験後の映画鑑賞による学習の感想から

図5の質問の「中間試験後の映画鑑賞による学習は？」に対し、「とても満足している」と答えた者が全体の6割以上であり、「満足している」と回答した者も含めると全体の9割

以上になる。即ち、この取り組みは学習者に圧倒的な支持を得ていることが見て取れる。また、「これまで学習してきた韓国語を聞き取れる部分が増え、これからの学習の意欲が湧いた」、「学習した単語などが劇中に登場するとこれはどういう意味か推測しながら見るのが楽しかった」、「文化の違いや言語の勉強にもなりました」、「映画も楽しめたし、単語を耳で聞き取って自分の学習に自信を持てた」、「映画がとても面白く、ますます韓国が好きになりました」のような声が多数届けられた。この取り組みにより、韓国と韓国文化や韓国語に対しても興味が沸き、学習者自ら学ぼうとする学習意欲も向上したと推察される。

一方では、幸いにも不満に思っている人はいなかったが、「朝には重い内容の映画だった」と回答した人が1人いた。こういった学習者に対しては無気味で不快な場面が出る前に目をつぶってもらうよう促しつつ対応していきたい。

図5 中間試験後の映画鑑賞による学習



以下は、「中間試験後の映画鑑賞による学習」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

- 韓国語で映画を見ることでリスニング力がついたり自分がどれだけ韓国語の力がついているか確認ができるので良いと思います。
- 映画がとても面白く、ますます韓国が好きになりました。
- 映画を見ることで韓国の文化に触れることが出来た。
- 映画も楽しめたし、単語を耳で聞き取って自分の学習に自信を持てた。
- 映画鑑賞を楽しみつつ、聞いたことのあるようなものも聞こえてきて、韓国語の知識がついてきていると実感できたので良かったです。
- 韓国語は聞き慣れた表現しか聞こえて来なかったが、文化を視覚的に学べたので印象に残った
- ★朝には重い内容の映画だった。

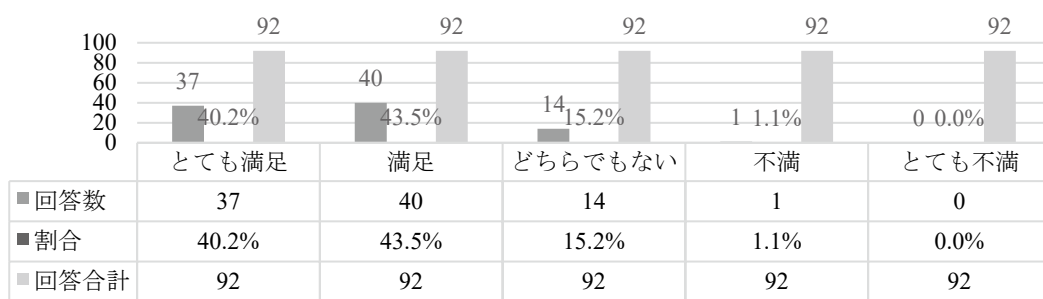
4.6 日韓の文化の違いなどの紹介の感想から

図6は学習者に「日韓の文化の違いなどの紹介は？」と尋ね、8割以上の者が満足しているという結果が得られた。また、集められた意見も「比較的近い国同士ではあるが、思わぬところに文化の違いが出ていて面白かった。他の人の意見でも、人によって観点が違い、より学びが深まった」、「韓国の文化や日本との類似点や相違点について知り非常に興

味深いと感じた」、「自分とは違った視点で見ている人の意見が見れて面白いと思いました」のようなものが多く確認できた。これは異文化に気づくことにより、韓国や韓国語に興味湧きモチベーション維持にも効果があったと思われる。さらに、Moodle上のフォーラムを通じて学習者同士の意見交換の場を設けたことにより、様々な観点や視点からの意見に気付かされ、より深い学びになったと窺われる。

一方、「一人一人メールで来なくてもいいと思った」、「提出しなくてもいい環境だと提出する気がなくなってしまうので何か制限をかけてもよいのではと思った」というコメントも届いた。今回、Moodleのフォーラムに投稿は自由にし、意見の確認を強制購読に設定したため、メールで届く回数がやや多かったと痛感している。今後、Moodle上の設定を任意購読にし、投稿は強制的に行うよう知恵を加えつつ実践していきたい。

図6 日韓の文化の違いなどの紹介



以下は、「日韓の文化の違いなどの紹介」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

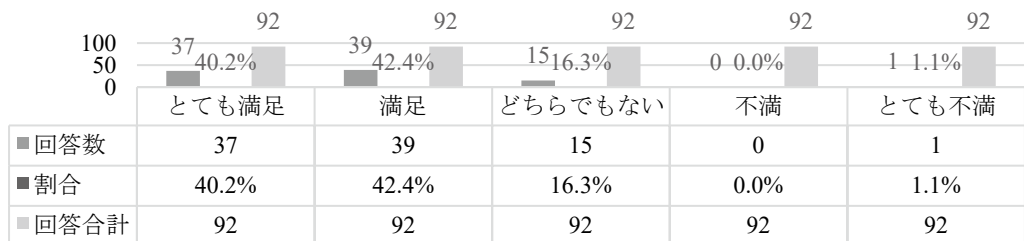
- 文化の違いを知れて韓国に行きたくなった。
- 韓国の文化や日本との類似点や相違点について知り非常に興味深かったと感じた。
- 他国の文化などを知る機会はそのようなないので、とても楽しかったです。文化の違いを知ることはグローバル化が進む現代において非常に必要な事であると考えます。
- たくさんの意見に触れることができるのは良いことだと思いました。
- 文化については教えてもらわない限り自分では調べなかったと思うし、より韓国の文化に興味を持った。他の人がこの内容にどんなことを考えたのかを知ることができたので共有もよかったと思う。
- ★一人一人メールで来なくてもいいと思った。moodle上で見れるようにしておけばいいと思う。
- ★提出しなくてもいい環境だと提出する気がなくなってしまうので何か制限をかけてもよいのではと思った。

4.7 韓国料理のレシピの紹介の感想から

図7は学習者に「韓国料理のレシピの紹介は?」と尋ね、8割以上の者が満足していることが分かった。学習者の意見としては「韓国の文化に興味を持つようになった」、「韓国

文化に触れてみる気になれた」、「とても簡単に、さらにおいしいそうなレシピを知ることができて一人暮らしなのでぜひ作ってみようと思いました。もっとたくさん知りたいです」というものが多数観察された。これは、学習者の韓国の食文化に興味を呼び起こすこととなり、自ら作ってみたいとか他の韓国の文化についても調べてみたいという気になれたことが見受けられる。しかし、今回の調査から気付いたことであるが、男子は料理をしない人もいるため、興味はあるものの女子学生に比べ反応が薄かったと考えられる。今後、男子学生も刺激されるような料理や辛い料理のレシピなど、より創意工夫を加えて継続して取り組んでいきたい。

図7 韓国料理のレシピの紹介



以下は、「韓国料理のレシピの紹介」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

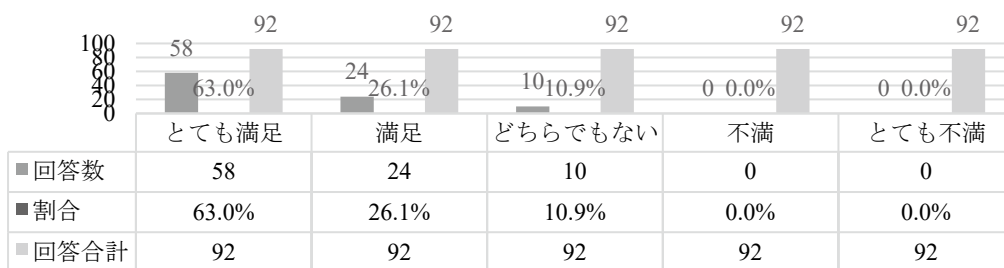
- ぜひ取り組んでみたいと思ったし、韓国がより好きになりました。
- 実際に作ってみたいと思いました。今度は韓国のお菓子のレシピが知りたいです。
- 通常の勉強だけでなく、韓国の料理のことが知れたので日常生活に活かせる情報でとても役に立ちました。
- 写真付きで分かりやすかった。
- 私が料理が好きなおこともあり、ぜひ作ってみたいと思った。韓国にもより興味を持てるので勉強するモチベーションの向上につながったと思う。
- 実際家で作ってみておいしかったし、語学を勉強したうえでその国の食べ物を食べてみるとよりその国に興味を持った。
- ★辛そうな食べものが多いと思った。

4.8 伝統衣装や伝統遊びの体験学習の感想から

図8の質問の「伝統衣装や伝統遊びの体験学習は？」に対し、「満足している」と答えた者が全体の9割近くいるのが分かる。コロナ禍の中での試みであったが、林・朴(2017)と林(2018)と同様な結果となり、先行研究を裏付ける結果となった。寄せられたコメントも「実際に文化に触れることで韓国をより身近に感じられました」、「異文化を体験することによって興味がわく人もいるので良いと思った」、「学習しながら、他の文化のことを知れたので、興味と勉強のモチベーションの向上に繋がった」のようなものが多かった。これは、座学的な言語の学習だけではなく、貴重な異文化の体験学習を加えることで眠気

防止にもなるし、自文化と異文化との類似点や相違点などにも気付かされ、モチベーション維持とともに韓国や韓国文化に対しても興味が湧いてきたと推察される。その反面、否定的な意見からも分るように、一人ぼっちの人や輪に入ることができない人、また伝統衣装を試着したくない人のために、気を配りながら臨機応変に対処していく必要があると実感した。今後の課題としたい。

図8 伝統衣装や伝統遊びの体験学習



以下は、「伝統衣装や伝統遊びの体験学習」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

- 言語だけでなく伝統文化についても学ぶことができたし、韓国独自の遊びを体験する機会はなかなかないので楽しかったし良い機会だったと思う。
- 韓国の衣装を着たり遊んだりしたことがなかったので、いい経験になった。楽しかったし、写真におさめることができてよかった。
- 座学だけでなくああいうものがあるとより韓国の文化に興味を持て、面白かったです。
- 他の分化を体験できる貴重な時間で、多様性を尊重するうえで必要だと思った。
- 教科書でしか見たことのなかった衣装を実際に着ることができてよかったです。伝統の遊びも友達と一緒にできて楽しかったです。
- ★ずっと同じ遊びをしている人がいると、そこに割って入るのはやりづらかった。
- ★服を着ることに限っては、人によって着たい着たくないがあると思う。
- ★体験できるのは良かったのですが、やはりぼっちにはつらいものがあります。一人ひとりで行うのなら大丈夫ですが。

4.9 コロナ禍の中で新たな試み

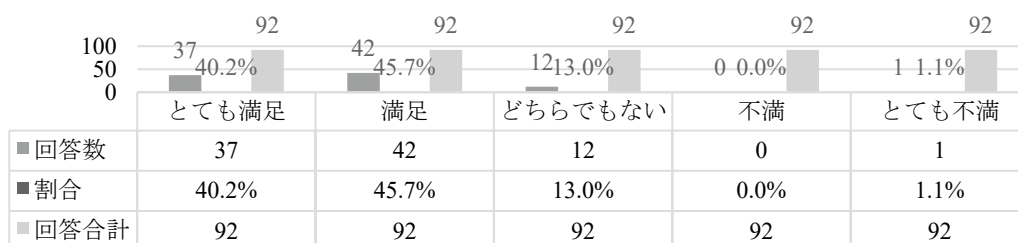
4.9.1 Moodleによるテスト形式の感想から

今回はコロナ禍の影響で教員と学習者間、また学習者同士の接触を可能な限り減らさないといけない状況であったため、すべてのテストを Moodle 上で行うしかなかった。Moodle によるテスト形式は採点が即時にできる点とすぐ間違いに気づき、覚えなおしが瞬時にできるなどメリットが大きい反面、ノートパソコンかスマートフォンなどのデバイス上で行うため、試験監督の難しさや選択式の問題が主流になるデメリットもあった。

図9は学習者に「Moodleによるテスト形式は？」と尋ね、約86%の学習者が満足してい

るという結果となった。これは、Moodleによるテスト形式が弱点はあるものの、学習者に受け入れられていることになる。しかし、「メモができないのが難点だった」、「選択問題が多かったので点数が取りやすかったのではと思った」、「通信環境問題で不安だった」のような否定的な意見もあった。今後、学習者の意見を踏まえて、メモをしたいという人にはルーズリーフなどを用いるように促し、選択式の問題と○か×かの問題、そして記述式の問題などメリハリのあるスタイルに改善していきたい。最後の通信環境に関するコメントは、教員の力で解決できる問題ではないため、受験可能時間の調整を通じて臨機応変に対応するしかないと考えている。

図9 Moodleによるテスト形式



以下は、「Moodleによるテスト形式」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

- リスニングが自分のパソコンで聞くことができるところは良かったと思います。
- 制限時間が見れて逆に焦らずできたのでよかった。
- レビューから自分の苦手分野が分かるのはいいと思った。
- リスニングも文法も様々な問われ方があって、しっかり学べたと思う。
- テストを受けた後に、コンピュータによる採点ミスを防ぐために先生が再度チェックしてくださっていたので、良かった。
- ★デバイス上でのテスト形式は筆記用具も必要がないし、選択問題などもクリックするだけでよかったのでとても簡単に受けることが出来ましたが、学校で受けるようになってからは通信環境がよくなかったりしてテストの途中で固まったりしたので、そういったところは少し困ることもありました。
- ★メモができないのが難点でしたが、オンラインテストはペーパーテストより受けやすかったです。
- ★途中でWi-Fiが切れたらどうしようという不安はあります。
- ★選択問題が多かったので点数が取りやすかったのではと思った。

4.9.2 iPadによる板書の感想から

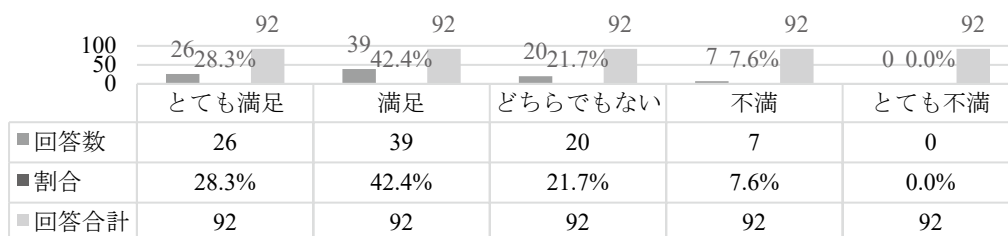
前項と同様で、教員を含め学習者同士の接触を可能な限り減らさないといけなかったため、板書をホワイトボードではなくiPad上で授業を実践した。iPadによる板書は、授業内容や文法事項を板書する時間を節約できるのとテキストの写真やpdfもiPad上に表示でき、

テキストと文法事項の解説が同時進行できるメリットがある。また、画面の拡大縮小も自由自在のため、見やすく理解しやすい点もある。

図 10 は学習者に「iPad による板書は？」と尋ね、7 割の者が満足していると回答し、7 % 程度の者が不満だと答えた。集まった意見も「同時に進行されるので集中しやすかったです」、「教科書がそのまま映し出されたり、テキストの文字などがあったりして見やすかった」、「教科書と同じ画面で板書をしていただくのはわかりやすくてよい」というものが多数確認された。これは、他の取り組みに比べ一際目立つ好評価ではないものの、学習者にとって斬新で価値のある取り組みではあったと思われる。

その一方で、「字が細かった」、「切り替わりが早い時があった」、「ホワイトボードと違って板書が残らないので、メモを取り終わる前に文字を消されたり次のページに行ってしまうとつらいです」、「機械の故障とかがあるのでホワイトボードでも良いのではと感じた」のようなネガティブなコメントも観察された。今回たまたま機材のトラブルが発生し、画面が映らなかった場面があったが、今後はトラブルがないよう万全を期したい。さらに、ペンスルの太さの調整と画面の切り替わりの時間調整を通して学習者にとってより有益な試みになるよう努めていきたい。

図 10 iPad による板書



以下は、「iPad による板書」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

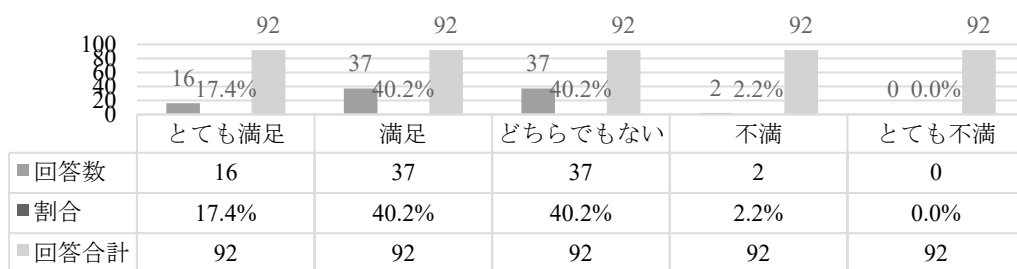
- 自分の持っている資料と照らし合わせることが出来たので分かりやすかった。
- 教科書の PDF が示してあり、ホワイトボードより見やすいので分かりやすかった。
- 図などによる説明は関係性などが分かりやすいため、良いと思う。
- ホワイトボードよりはわかりやすかった。
- 消しやすく授業の進行も早くなるため理解しやすかった。
- ★字が細かった。
- ★切り替わりが早い時があった。
- ★カラフルでみにくいところもあった。
- ★テキストの写真や pdf があって見やすく理解しやすかったです。ホワイトボードと違って板書が残らないので、メモを取り終わる前に文字を消されたり次のページに行ってしまうとつらいです。
- ★機械の故障とかがあるのでホワイトボードでも良いのではと感じた。

4.9.3 ハングルのタイピングの練習¹⁹の感想から

従来の紙ベースの試験ならば韓国語で書かせる記述式の問題を提出するが、Moodleにより直接書かせることが不可能であったため、ハングルのタイピングの練習をさせノートパソコンかスマートフォンなどのデバイス上で打ち込める問題を今回初めて試みた。

図 11 の質問の「ハングルのタイピングの練習は？」に対し、「満足している」と答えた者が全体の 6 割近くいて、「どちらでもない」と回答した者が 4 割程度、「不満」であると返答した人が 2 人いるのが観察できた。集められたポジティブな意見としては「シフトの使い方や押す順番などを丁寧に教えていただいたのでわかりやすかった」、「時間はかかるが、テスト時間を延ばすという配慮があったので良かったと思う」、「自分 1 人では練習が難しいけれど、学校で先生や友達に教えてもらいながらできると練習しやすいので授業の中でタイピングの練習を取り入れるのは良いと思います」のようなものが観察できた。反対に、ネガティブな意見としては「下に文字がないと打ち込むのは厳しいと思った」、「慣れないタイピングなのでテスト時間内に回答できるかが少し不安」、「PC での打ち込みは難しく感じた」のようなものが見られた。前項のすべての取り組みに比べ、学習者の高い支持は得てないものの、この試みにより韓国や韓国語に気になることがあった際に、学習者自らネット上で日本語だけでなく韓国語でも検索が可能となるなど、試す価値はあると考えている。一方、スマートフォンだと打ち込みやすいが PC だとハードルが高いし、ハングルの打ち込みに慣れるまで時間が必要であることも分かってきた。改善の余地は十分にあるため、価値のある取り組みになるよう今後の課題としたい。

図 11 ハングルのタイピングの練習



以下は、「ハングルのタイピングの練習」に対して自由コメントを入力してもらった結果である。

- 携帯でしたのですが、いつかスラスラ打ってみたいと思っていたので良い機会でした。
- 言語の追加はできたが 2 連続の子音の打ち込み方を知らなかったのでテスト前に打ち方の練習ができてよかった。
- 最初は難しかったが、やっていく中で慣れていった。実際に打ち込むことで、パッチムの音は同じだが文字が異なるものも覚えなければならず、よりペーパーテストに近いテス

¹⁹ 今回は PC でも携帯でも可能とし、キーボードの資料を事前に配り、テスト時に持参しながら受けても良いと支持を出した。また、テストの時間も普段より長めに設定をして行った。

トになっていると思う。

- あらかじめ練習しておくことで本番がスムーズに迎えられるので、良いと思った。
- 慣れるまでが大変ですが、練習することはとても良いことだと思います。
- ★慣れないタイピングなのでテスト時間内に回答できるかが少し不安。
- ★PCでの打ち込みは難しく感じた。
- ★下に文字がないと打ち込むのは厳しいと思った。

5. 遠隔授業（Zoom と Moodle を含む）と対面授業をブレンドした授業形式²⁰

この節では、遠隔授業（Zoom と Moodle を含む）と対面授業をブレンドした授業形式について、学習者が実感していることを尋ねた結果である。質問は、以下の4つである。質問1「Moodleでの動画提供により、授業内容が理解しやすいか」の結果は以下の図12から分かるように、「そう思う」と回答した人が98%であった。これは、ほぼ全員の学習者に高い支持を得ていることになる。今後も、取り組むべき試みであることが示唆される。

図12 Moodleでの動画提供により、授業内容が理解しやすいか

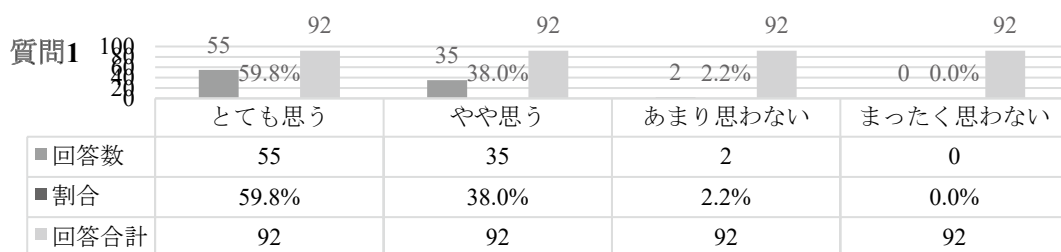
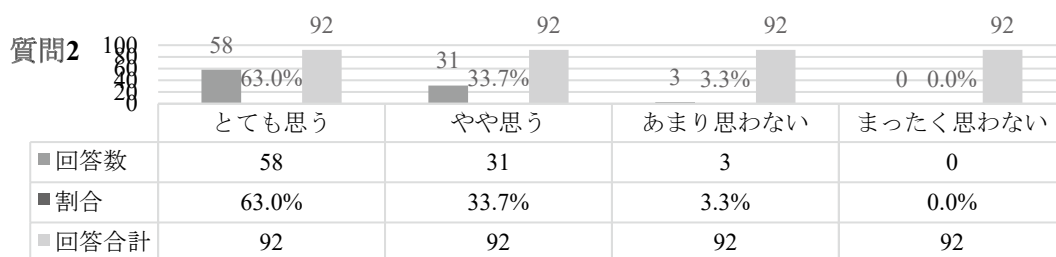


図13は、質問2「Moodleでの動画提供により、予習・復習がしやすいか」を尋ねて得た結果であり、質問2に対しても質問1と同様、97%という高評価であることが窺える。今年度も2020年度と同様に、熱を出したり体調を崩したりなどの理由で欠席をするケースが多かったため、学習者の理解度や進捗状況に合わせていつでもどこでも学習できる利点があり、Moodleでの動画提供は意義があることが見て取れる。質問1と質問2の動画作成にはiPad用のアプリ(Explain Everything BASICS)を用いて対面授業時と同様な解説をし、ユーチューブに限定公開したものをMoodleの該当コース内で登録されている受講生だけに限って提供した。

²⁰ ここでは、学者者の負担を減らすため、自由コメントの欄は設けなかった。

図 13 Moodle での動画提供により、予習・復習がしやすいか

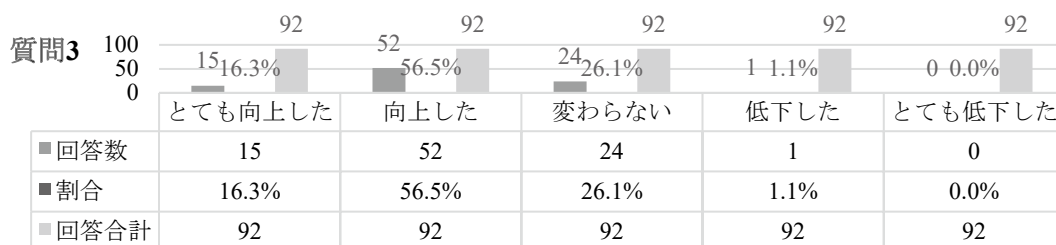


質問 3 は、「今回のブレンドした授業形式により、教育内容や学習効果は向上したと感じますか」と質問した。その結果以下の図 14 から見て取れるように、73%の人が「学習効果が向上した」と答え、26%の人が「変わらない」と回答した。また、「低下した」という人も 1 人確認された。今回は文字の習得の部分（第 1 課～第 4 課）は双方向型遠隔授業ではあったもののオンライン授業のみで行われたため、その際上手に取り組みなかった学習者がいると思われる。溝上（2020：94）では、オンライン学習が学習者の主体性にかなり依存している学習法であるため、その点がデメリットになり得ると指摘している。また、김영주・김인숙（2021）では、教育大学の生徒を対象に、遠隔授業に対する経験談を Focus Group Interview による調査をし、オンデマンド形式の動画による授業の弱点は学習動機と集中力の低下であり、同時双方向型遠隔授業による授業の弱点は、時間が経てば経つほど授業参加に伴う疲労度が急増し集中力の維持が難しかったという調査報告をしている。

つまり、動画を見ながら復習をしないといけないのに、モチベーションの維持ができず分からないままにして、学びが止まっている学習者が多少なりとも存在したのではないかと推測される。

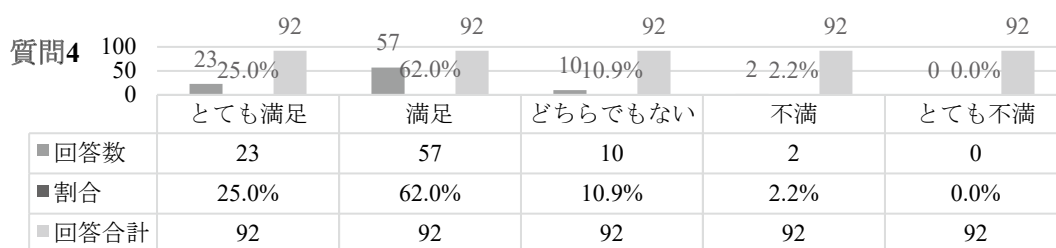
今後、学びが止まっている学習者に対しての配慮と早い段階での促しやフィードバックが必要であると痛感している。

図 14 今回のブレンドした授業形式により、教育内容や学習効果は向上したと感じますか



質問 4 は「今回のブレンドした授業形式について総合的な満足度を教えてください」と尋ね、回答してもらった結果である。図 15 から判断できるように、前項の質問 1 と質問 2 のような圧倒的な支持とは言い難いものの、9 割近くの人が満足している²¹のが確認される。これは、コロナ禍の影響で制限が多い中行われた遠隔授業と対面授業をブレンドした授業形式が多かれ少なかれ効果的であったことが窺われる。

図 15 今回のブレンドした授業形式について総合的な満足度を教えてください



6. 授業全般における学習者の感想及び要望から

アンケート調査の最後に、「韓国朝鮮語Ⅰ」科目の受講後の授業全般について学習者の率直な感想を聞かせてくださいと回答を求めた。以下に学習者の感想を紹介する。今回の調査で否定的なコメントとして「予想以上に覚える事が多くてきつかったです」、「マイクが微妙に聞こえづらいことがあるので特に話終わりをはっきり話してもらえるとより指示や話が聞き取りやすいと思った。また、文法の練習問題がさらにあると復習するときにさらに練習ができて良いかなと思った」という意見が確認できた。「予想以上に覚える事が多くてきつかったです」という意見を踏まえ、入門クラスで学ぶべき内容と語彙を最低限に絞って作成したテキストであるため、割り切るしかないと考えているが「覚えるコツを教えたりする」などの知恵を絞りつつ改善をしていきたい。また、「マイクが微妙に聞こえづらいことがあった」と「文法の練習問題がさらにあると復習するときにさらに練習ができて良いかなと思った」の回答に関しては、マイク機材のトラブルはあったものの、言い方や解説の仕方なども含め、今後修正の余地があると実感している。今回の調査で寄せられた学習者の貴重な意見と調査結果を考察し得られた知見は、今後韓国語教育の改善に有効活用していきたい。

- 韓国語の理解だけでなく、文化に触れる機会もあったのでとても楽しみながら授業を受けることができた。文化紹介や映画鑑賞などは今後も続けていってほしいと感じた。
 - 文体などわかりやすく教えていただいた分理解するのが早かった。
 - とても楽しく学習できました！特に韓国の文化に触れさせてもらえる機会が多く、モチベーションの維持に繋がりました！
 - 授業時間や板書などにおいて、常に生徒優先で考えてくださっており、授業へのモチベーションへとつながったと思います。欠席への対応も優しく、本当に助かりました。
 - 毎授業分かりやすくとても満足している。moodleにある動画も授業の理解に繋がって
- ²¹ 이영희·박윤정·윤정현 (2020)では、遠隔授業の運営に関して受講生にオンライン上で満足度調査を行った。その結果、満足している点として①いつでもどこでも学習が可能である、②講義の動画を繰り返して視聴できる、③遠隔授業の中で教員を含め、相手との意思疎通が可能であることを挙げた。他方で、満足していない点としては、①動画の質（音声や画質）が問題である、②全体的に分量と講義時間が縮小された遠隔講義の動画と学習資料による教科内容の十分な伝達と理解が難しい、③オンライン授業で提示される課題が多く、課題を遂行する期間が不足している点と使用中のシステムの不安定さで学習資料の利用（動画視聴および資料のダウンロードなど）において困難である、④授業内容を理解するのに役立つ十分な授業中の活動（理論の説明、実験と実習、練習問題の答え合わせなど）が不足している授業内容を理解することを挙げた。

とても良いと思った。

●総合的にとても楽しい授業だったと思います。テスト後に休憩として映画鑑賞をしたり、勉強の一環としてビンゴ大会をしたりと、楽しんで韓国語の勉強ができる工夫がたくさんされていて、実際に楽しんで学習ができました。

●練習問題で詰まっている時先生の方から声を掛けて頂けたので、先生に質問するハードルが下がった。

●先生が優しく楽しく話しかけてくださったり、教えてくださったおかげで勉強を頑張ろうと思えた。映画を見て中間テスト後少し休めるようにしてくださったり、伝統衣装や遊びで楽しませてくださったおかげで韓国語の授業を楽しむことができた。

★予想以上に覚える事が多くてきつかったです。

★改善してほしいことを挙げるとすれば、マイクが微妙に聞こえづらいことがあるので特に話終わりをはっきり話してもらえるとより指示や話が聞き取りやすいと思った。また、文法の練習問題がさらにあると復習するときにさらに練習ができて良いかなと思った。

7. まとめと今後の課題

本稿では、コロナ禍の中で行ったハイブリッド型の授業について、その有効性と改善点を探るために、島根大学で行った「韓国朝鮮語Ⅰ」の授業実践を報告し、授業後に実施したアンケート調査に基づき学習者が授業中に行った取り組みに対して、どういった実感と評価をしているのかを考察した。

今回の「韓国朝鮮語Ⅰ」の授業では「語呂合わせやリズムに乗せての暗記形式」、「ビンゴを通じた数字の学習」、「手鏡やスマートフォンのカメラを通じた文字の習得」、「感染防止対策を講じた移動式会話の練習」、「中間試験後の映画鑑賞による学習」、「日韓の文化の違いなどの紹介」、「韓国料理のレシピの紹介」、「伝統衣装や伝統遊びの体験学習」、「Moodleによるテスト形式」、「iPadによる板書」、「ハンゲルのタイピングの練習」を取り入れて授業実践を試みた。授業終了後に実施したアンケート調査の結果、以下のような改善すべき点が浮き彫りとなった。主たるものを挙げれば、それは、①「語呂合わせが苦手で、普通に覚えた方が良い学習者への配慮」、②「ビンゴを通じた数字の学習の際、数字を言うスピードと数字の音声を Moodle 上に提供する」、③「人の前で口元を見せることに抵抗のある方はブレイクアウトルームを用いて対応するなどの配慮」④「人に話しかけることが苦手な人への素早いフォローや配慮」、⑤「映画鑑賞時に無気味で不快な場面が出る前に合図を出す配慮」、⑥「Moodle 上の設定を任意購読にし、投稿は強制的に行うようにする」、⑦「男子学生も興味が湧く料理や辛い料理のレシピ紹介」、⑧「一人ぼっちの人や輪に入れない人、また試着したくない人への配慮」、⑨「Moodle による試験時に、メモをしたい人への配慮と多様な問題形式記の改善」、⑩「ペンシルの太さの調整と画面の切り替わりの時間調整の改善」、⑪「PC でのハンゲルのタイピングの練習時間を確保」の 11 点に集約できる。上記のような改善点は多少ともあるものの、「韓国朝鮮語Ⅰ」の授業で行ったすべての試みが学習者に以下のような高い支持と好評価を得ていることが観察された。まず、「語呂合わ

せやリズムに乗せての暗記形式」で、「語呂合わせやリズムで暗記することで記憶に残りやすかった」という意見が多く届けられた。これは、割と暗記しづらい韓国語の発音のルールなどを暗記する際、楽しみつつ長期記憶にも効果のある学習方法であったことが示唆される。次に、「ビンゴを通じた数字の学習」で、「楽しみながら学ぶことで定着しやすかった」というコメントが多く集まったため、楽しみつつ頭にも残りやすい実践であったことが見受けられる。次に「手鏡やスマートフォンのカメラを通じた文字の習得」では、「自分の口の形を確認しながら勉強することができて分かりやすかった」との声が多数届けられた。つまり、正しく発音をしているかを確認しないといけない文字の習得には効果が高かったことが推察される。次に「感染防止対策を講じた移動式会話の練習」では、「話すのも楽しいし、習得が早いと感じるので良かったです」のような意見が多かったため、コロナ禍で人と話す機会がほとんどない中で人と接することで新しい友達もできる傍ら、眠気防止にもなると同時に実際に話してみることでより韓国語を学ぶ楽しさを実感できたと推測される。次に「中間試験後の映画鑑賞による学習」で、多く見られた返答は「これまで学習してきた韓国語を聞き取れる部分が増え、これからの学習の意欲が湧いた」であった。即ち、この取り組みにより韓国と韓国文化や韓国語に対しても興味が湧き、学習者自ら学ぼうとする学習意欲も向上したと予測される。次に「日韓の文化の違いなどの紹介」では、「韓国の文化や日本との類似点や相違点について知り非常に興味深いと感じたこと」と「自分とは違った視点で見ている人の意見が見れて面白いと思いました」という声が多く集まった。これは、異文化に気づくことにより、韓国や韓国語に興味が増えモチベーション維持にも効果があったと思われる。また、Moodle上のフォーラムを通じて様々な観点や視点からの意見に気付かされ、より深い学びに繋がったと窺われる。次に「韓国料理のレシピの紹介」では、「韓国の文化に興味を持つようになった」という回答がたくさん届けられたため、学習者の韓国の食文化に興味を呼び起こすこととなり、自ら作ってみたいとか他の韓国の文化についてももっと調べてみたい気持ちになれたと判断できるだろう。次に「伝統衣装や伝統遊びの体験学習」で多く確認できた意見としては、「学習しながら、他の文化のことを知れたので、興味と勉強のモチベーションの向上に繋がった」であった。つまり、貴重な異文化の体験学習をする自文化と異文化との類似点や相違点などにも気付かされ、モチベーション維持とともに韓国や韓国文化に対しても興味が湧いてきたと考えられる。次に「Moodleによるテスト形式」では、「レビューから自分の苦手分野が分かるのはいいと思った」というコメントが多数発見された。これは、Moodleによるテスト形式により採点が即時にできるし、すぐ間違いに気づき覚えなおしが瞬時にでき、学習者にとってメリットが大きかったと推定可能であろう。次に「iPadによる板書」で、たくさん観察された声は「教科書と同じ画面で板書をしていただくのはわかりやすくてよい」であった。これは、テキストの写真やpdfもiPad上に表示でき、テキストと文法事項の解説が同時進行できるし、画面の拡大縮小も自由自在のため、見やすくて理解しやすかったことが見て取れる。次に「ハンゲルのタイピングの練習」では、「最初は難しかったが、やっていく中で慣れていった」と「実際に打ち込むことで、パッチムの音は同じだが文字が異なるものも覚えなければな

らず、よりペーパーテストに近いテストになっていると思う」のようなコメントが集まった。この試みにより韓国や韓国語に気になることがあった際に、学習者自らネット上で日本語だけでなく韓国語でも検索ができるようになったと推定される。

最後に、学習者に今回の遠隔授業（Zoom と Moodle を含む）と対面授業をブレンドした授業形式について実感していることを4つの質問として尋ねたところ、次のような結果が得られた。

まず、質問1「Moodleでの動画提供により、授業内容が理解しやすいか」で、「そう思う」と回答した人が98%であることが明らかになった。これは、ほぼ全員の学習者に好意的評価を得ていることになる。今後も、取り組むべき試みであることが示唆される。次に質問2の「Moodleでの動画提供により、予習・復習がしやすいか」と尋ね、質問1と同様に97%の学習者に認められていることが判明された。つまり、学習者の理解度や進捗状況に合わせていつでも学習できる長所があり、Moodleでの動画提供は有意義な実践であると確信した。次に質問3「今回のブレンドした授業形式により、教育内容や学習効果は向上したと感じますか」では、前項の2つの結果と違って「学習効果が向上した」が73%、「変わらない」が26%、「低下した」と回答した者も1人いることが分かった。今回授業の前半部分を占める文字の習得の部分は遠隔授業（同時双方向型遠隔授業）のみであったため、各自動画を見ながら復習をしないといけないのにモチベーションの維持ができず、学びが止まっている学習者が少なからず存在したと推定される。こういった学習者に対してスピード感を持って関心を寄せ、対応していきたい。最終的に、質問4の「今回のブレンドした授業形式について総合的な満足度を教えてください」と質問し、前項の質問1と質問2のような突出した賛成とは言い切れないものの、9割近くの学習者が満足しているという結果を確かめることができた。これは、コロナ禍の影響で制限が多い中行われた遠隔授業と対面授業をブレンドした授業形式が大なり小なり有効的な試みであったことが窺われる。

今回のコロナ禍で行った経験を最大限有効活用し、今後ポスト・コロナ時代の韓国語教育の実施方法や在り方について反映していきたい。

参考文献

- 김영주·김인숙 (2021) 「교육대학교 학생의 원격수업 경험 분석」 『통합교육과정연구』 15 권 1 호, 1-26.
- 이영희·박윤정·윤정현 (2020) 「COVID-19 대응 대학 원격강의 운영 사례 분석을 통한 유형 탐색」 『열린교육연구』 28 권 3 호, 211-234.
- 林河運·朴瑞庚 (2017) 「韓国・朝鮮語圏の文化教育授業における実践報告—授業の活性化を促すための試み—」 『島根大学外国語教育センタージャーナル』 第12号, 95-111.
- 林河運 (2018) 「韓国朝鮮語におけるブレンディッド・ラーニングによる授業実践—反転授業の活用—」 『島根大学外国語教育センタージャーナル』 第13号, 103-125.
- 葛城浩一 (2021) 「コロナ禍における学生の学習活動及び教員の教育活動の実態」 『香川大学教育研究』 第18号, 77-90.

神奈川大学教育支援センター(2020)「「遠隔授業の有効性と課題」に関する調査アンケート：学生向け集計結果」, <https://www.kanagawa-u.ac.jp/fd/topics/article069.html> (2021年4月1日に習得).

九州大学教育改革推進本部(2020)「九州大学のオンライン授業に関する学生アンケート(春学期)結果について」九州大学広報室(2020年8月11公開).

溝上真一(2020)「主体性に依存するオンライン学習—教育格差か、それとも個の多様性か」『教職研修』編集部(編)『ポスト・コロナの学校を描く—子供も教職員も楽しく豊かに学べる場をめざして』教育開発研究所, 88-97.

文部科学省, 新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について, 大学・大学院・高専に関する情報, https://www.mext.go.jp/content/20201223-mxt_kouhou01-000004520_03.pdf (2021年8月1日に習得).